

タイトル：「アジア・アフリカ地域におけるグローバル化の多元性に関する人類学的研究」
(平成 20 年度第 2 回研究会)

日時：平成 20 年 10 月 26 日（日曜日）午後 12 時半より午後 6 時

場所：AA 研 304 室

報告者名（所属）：1. 湖中真哉（AA 研共同研究員、静岡県立大学）「人類学的グローバリゼーション研究の課題」

2. 井上真悠子（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）：「東アフリカ観光地域における「みやげ物絵画」の展開」

1. 湖中真哉「人類学的グローバリゼーション研究の課題」

本発表では、グローバリゼーション研究における人文・社会諸科学の先行研究成果を広範に検討し、本共同プロジェクトの観点から、人類学的グローバリゼーション研究の課題を探った。

まず、グローバリゼーションの概念と定義を検討し、「国際化」、「グローバリズム」、「グローバリティ」といった近縁の概念との異同を確認した。つぎに、「脱埋め込み化」、「加速」、「標準化」、「相互関連化」、「移動」、「混淆」、「脆弱性」といった諸概念とそれに対する対抗力においてグローバリゼーションをとらえるエリクセンの見解を紹介した。そして、グローバリゼーションの歴史的初段階に関する諸説を検討した。また、グローバリゼーション研究がナショナルな枠組にとらわれずにローカルとグローバルの相互関連に注目する研究の視角や方法論に属する事柄であることを確認し、安易かつ実体的なグローバリゼーション研究を批判した。

本発表では、グローバリゼーションの主要な理論として、(1) 世界システム論、(2) 帝国とマルチチュード、(3) グローカリゼーションと接合論、(4) 抵抗論、(5) 微細なグローバリゼーションの 5 つを検討した。また、グローバリゼーションをめぐる議論として、(1) グローバル化論者と伝統論者、(2) 政治・経済・文化、(3) 肯定論者と否定論者の 3 つの論争軸を紹介し、ファーガソンが言うようにグローバリゼーションをめぐる理論や議論において無視されており、「最底辺の 10 億人（ポール・コリアー）」の 7 割を占めるアフリカの問題を指摘した。

結論として、人類学的グローバリゼーション研究の課題として以下の点が指摘できる。

(1) グローバリゼーション研究において、ポリティカル・エコノミーの研究においても、グローバル・カルチャーの研究においても、人類学は明らかに他の人文・社会科学に対して影響力をもっていない。しかし、両者の接合は、人類学独自の貢献として期待できる。(2) グローバリゼーションが顕著に観察されるような対象にのみ注目するのではなく、グローバリゼーションから排除されてきた対象やより微細なものにあえて注目し、地球規模の圧倒的な格差を前提として人類像の抜本的な見直しを行う必要がある。(3) 「半周縁」といった概念に明らかのように、世界システム論の議論自体が既にある程度「多元性」を考慮に

容れている以上、本共同研究のテーマであるグローバリゼーションの「多元性」については、それとは異なる視角を打ち出す必要がある。

2. 井上真悠子 「東アフリカ観光地域における「みやげ物絵画」の展開」

現在、アフリカの多くの国家において観光化が進んでおり、みやげ物業は観光産業の中でも大きな収入が期待できる要素のひとつである。従来、みやげ物をはじめとする観光に関する諸問題は、一つの観光地、もしくはその国家の問題として「ご当地」的にとらえられることが多かった。しかし、近年のアフリカにおけるみやげ物業、その中でも特にティンガティンガなどの「みやげ物絵画」は、ケニア・タンザニア・南アフリカといった広い範囲において扱われており、商品となるモノ（絵画）のみならず、画家や客引きまでもが携帯電話を駆使したネットワークを形成しながら広い範囲を移動していると考えられる。そのため、彼らの活動の規模や全体像は、国家や行政区といった従来の「地域」概念を単位とした視点からではとうてい把握しきれない複雑かつ動的な状況にあることが予想される。

1980年代から急激に観光化が進んだ東アフリカ・タンザニアのザンジバルにおいても、みやげ物絵画業にたずさわる者の多くはタンザニア本土部から渡ってきた若者たちである。そして、画家の中には、ザンジバルだけでなくいくつもの観光地を短期的・長期的に移動しながら絵を描いている者が多く存在しており、みやげ物絵画に関わる人々が地域や国境を越えた東アフリカの広い範囲につながりを持っていることが示唆された。本研究では、みやげ物絵画をつくる人たちの実践に焦点を当て、特にザンジバルにおける「キス・マサイ」という真っ赤なマサイを描いた新しいみやげ物絵画の技法・スタイルの創出と模倣のプロセスに注目する。そして、広範囲を移動する画家たちが、どのようにつながり、関わり合いながら新たなみやげ物絵画のスタイルをつくりだしているのか、その社会的背景を明らかにする。